



善刃  
おんほい

-半蔵編-



「私にだってこれくらい…  
パイズリくらいでできますー!」

もも、ん、ん



「んっ♡ あ、あのちょっと…  
なぜ急に胸に押し当て始めるのですか？」

はっはっは

ドクドク

キーン



「ちゅっ...」

とろろ  
とろろ

びゅん  
びゅん

びゅん



「はあはあ...す、凄い臭い...  
これが精液...」





「手で強く締め付けられればいいのですかね？  
いい、痛くはないのですか？」

ズキ  
ズキ  
ズキ

ズキ  
ズキ





「そのままトコトコ...  
こっぴでしよっか?」

ソッソッソッ  
ソッソッソッ  
ソッソッソッ

トコトコ  
ソッソッ  
ソッソッ  
ソッソッ  
ソッソッ

ソッソッ







「ん…忍びなればこれくらい  
パイズリくらい朝飯前です…」

どろろ

ム  
カ  
ン  
ク  
ン

だらぁ..





「ちよっ、三人同時になんて聞いてません  
そんなに押し付けしないでくださいー」

クッ  
グッ  
クッ

グッ

ズッ

グッ





「や、やめてください……  
私の胸はあなた達のおもちゃでは……」







「ダメだと言ったのにこんな…」

ゴッ  
ゴッ  
ゴッ  
ゴッ  
ゴッ

ゴッ  
ゴッ  
ゴッ  
ゴッ  
ゴッ

ゴッ





「なんで俺がこんなことを  
しなければならぬんだ…」

しっしっ

はっはっ

はっはっ





「んっ♡出すならさっさと出せ  
こんなこと…時間の無駄だ…」

ぽんぽん

んん

んん

んん



「んんっ...」





「くっ…これで満足だろう  
全くひどい臭いだ…」



「またこれか…物好きなのやつだなお前も…」



「ん…ほら、さっさと中にいせ  
溜まっていたんだろ？」







「んんん!!」

バクバク

ンンン!!

ドドド

ブンブン



「こんなに…精液を無駄に吐き出すのは  
さぞかし楽しいだろうな」

ハッ  
ハッ

ゴッ  
グッ





「一度に二人の相手をするなんて聞いてないぞ  
全く…図々しいやつらだ」

「情けない顔をしてるな、もう射精しそうなのかな？  
いいぞ、思う存分出せ」









「うう…精液というのは苦いものなんだな…」

ねる

トク...トク

トク...トク





「おっぱいでして欲しい？  
ったくしようがねえなあ…ほりよー!」

ギ  
ッ  
ッ  
ッ

ッ  
ッ  
ッ  
ッ

ず  
ッ  
ッ



「パイズリしてほしかったんだろ？  
おらっ！すぐにいったら承知しな〜ぞ〜」



「うわっはー!」





「うわぁ…すげー量！  
どんだけ溜めてたらこんなんなるんだよ」

だらあ...♡



「またこれかよ…お前もほんと懲りないなあ  
ほら、胸なら貸してやるからお前が動きな」





「ちよっ！激しすぎだろ！  
アタイの胸はおもちやじゃないんだぞ！」





「あーっ...」



「はあはあ...またこんなに射精して...  
どんだけパイズリ好きなんだよこの変態は」



「押し付けてるだけじゃねーか…  
こんなんでホントに満足できんのかよっ…」

ぐ  
ー  
ー  
ー

お  
ー  
ー  
ー

ー  
ー  
ー  
ー





「んっカリに乳首が擦れてくすぐったいな……」

んんん

んんん  
んんん

んんん  
んんん







「んっ!」

ズッ

ウッ

ズッ

ズッ  
ウッ  
グッ  
ズッ  
ウッ

ズッ  
ウッ



「こんなに射精するなんて、お前ら相当な変態だな♡」

どろろ  
どろろ  
どろろ

どろろ  
どろろ  
どろろ

どろろ...







「いえしいーひばり今からパイズリがんばりますーす♡」

むちむち女

にゅふ

にゅふ

にゅふ



「あはっ♡おちんおんがおっぱいの中で  
大暴れしてるね♡」





「ひゃあー!」

だっかー

へっ  
わっ  
ろっ  
ろっ  
V  
V

び  
び  
び  
V  
V



「うわぁいっぱい出たね！  
ひばりのおっぱい気持ちよかった？」



「えへへへ  
おちん○ん全部隠れちゃったね♡」



す"す"♡

い  
い  
い



「んんっ  
いいよ♡むぎりのおっはよこの母に  
いっぽいおっは」



おっはよ  
んんっ

ぽっ  
んんっ



「ひゃっ♡あっつ♡」



ズッ  
んっ  
んっ



「ああ…いっぱい出たね  
おっぱいの中ぐちよぐちよだよあ  
♡」

しー

ろお

…

とろろ  
ー  
3  
ー  
ミ  
ン

おっぱい  
びん







「今回はひばり一気に  
三人と仲良くしちゃおうよ♡」

い  
い  
い

い  
い  
い

い  
い  
い



「あははっ♡ちよっくとくすぶったいよ」

あははっ♡ちよっくとくすぶったいよ

あははっ♡ちよっくとくすぶったいよ

あははっ♡ちよっくとくすぶったいよ





「あはっ♡でたでたあ♡」



「いっばい出たね  
おっぱいせいしだらけになっちゃった♡」

どろろ

どろろ  
どろろ

どろろ  
どろろ



「これってホントに修行なんですか？  
なんの修行になるんだらう……」



「あっちよっと！胸を乱暴に扱わないでください！」







「んっっー!」



「うう…酷い臭い…  
これに一体なんの意味があつたんですかあ？」

ズザッ

ギン







「胸を腕で押さえつけてぎゅっ」と…  
これでいいのかなあ？」

むちむち

おっぱい  
むちむち



「おっぱいの中でおちん○ん擦れて  
すっごくあっつくなってます」

たっ たっ たっ

ゴッ

しゅん







「凄い量...  
顔にまでかかっちゃいました...」

ブッハッ

どろろお...  
ッ

とろっ





「もう…順番って言うてるのに…  
しょうがないから我慢できなかつた人は  
手でしてあげますね♡」

ぐわっ  
ぐわっ

ぐわっ  
ぐわっ  
ぐわっ

ぐわっ



「んっ♡おちん○んあっつくなくてきましたよ  
胸にいっっぱい出してくださいな♡」





「気持ちよかったですか？  
みんなが喜んでくれたなら私すごく嬉しいなあ！」

おっ  
おっ  
おっ  
おっ

びくっ

びくっ  
びくっ  
びくっ

